

平成30年度行政評価 施策評価シート (平成29年度実績)

施策名 地域連携の充実

施策コード

020103

1. 施策の担当

主管課	教育部 教育総務課
関係課	学校教育課

2. 総合計画における位置づけ

総合計画	政策	第2章 歴史・文化を大切にし、ひとを豊かに育むまちづくり（教育・文化）	節	第1節 学校教育
	施策	地域連携の充実		

基本方針

- ・学校、家庭及び地域社会の連携を強化して、活動や体験の場を重視し、次世代を担う人材の育成を推進します。
- ・学校教育に支障がない限り、学校施設を市民のスポーツや文化の活動の場として提供します。

現況と課題

- ・学校、家庭及び地域の総合的な教育力の再構築を図り、地域社会を挙げて様々な取り組みを推進し、豊かな人間関係づくりを通じて、児童及び生徒の「生きる力」を育む地域コミュニティづくりが求められています。
- ・保護者や地域、関係機関等の連携を強め、地域社会が一体となった幼稚園、小学校、中学校及び地域における幼児、児童及び生徒の安全な環境づくりが重要になります。
- ・小学校、中学校の施設を社会教育その他公共の使用のために開放しています。また、管理運営は、学校ごとに校区住民が中心となって構成されている運営協議会が行っています。

施策目標

対象（誰を、何を、どこを）

市民及び児童・生徒

意図（どのような状態にしたいのか）

学校、家庭、地域社会が一体となり、児童・生徒の「生きる力」を育む。

3. 市民ニーズ

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
満足度（偏差値）	54.9						
重要度（偏差値）	56.2						

4. 施策にかかるコスト

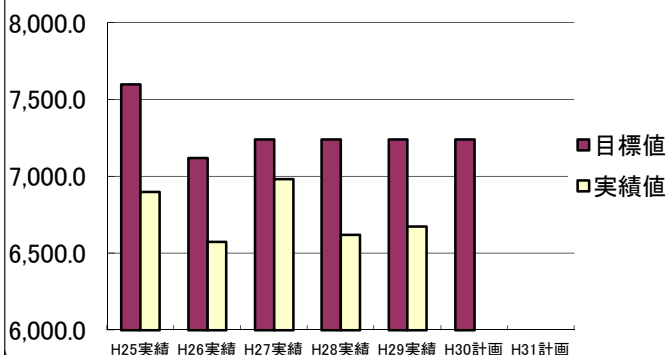
	単位	H28決算	H29決算					
コストの内訳	人件費	千円	6,523	6,365				
	事業費		6,282	6,285				
	フルコスト		12,805	12,650				
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0				
	府支出金		0	0				
	市債		0	0				
	その他		5,536	5,126				
	一般財源1（＝フルコスト－特定財源）		7,269	7,524				
	一般財源2（＝直接事業費－特定財源）		746	1,159				

5. 施策の成果指標

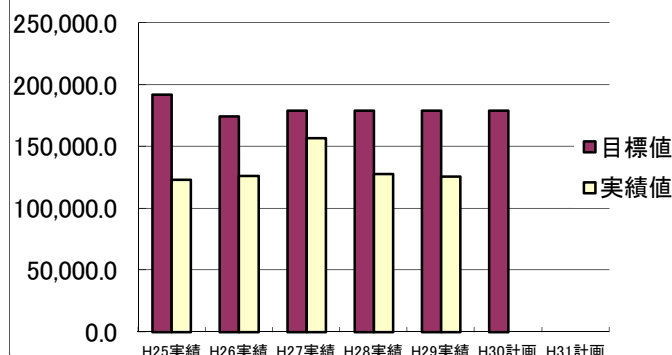
① 成果指標1		学校施設の年間利用回数					
項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30計画	H31計画
目標値	7,600.0	7,120.0	7,240.0	7,240.0	7,240.0	7,240.0	
実績値	6,901.0	6,572.0	6,983.0	6,618.0	6,676.0		
達成度	90.8	92.3	96.45	91.41	92.21		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
学校施設を市民のスポーツや文化の場として提供することで、体育施設を必要とするスポーツ団体の状況が分かる。また、利用団体は学校施設の効率的な使用ができる。		平成16年度より市内全小・中学校で実施。近年利用回数は頭打ち状況のため今後の伸び率を約2～3%に設定。ただし、平成25年をピークとし、目標値を再設定。		学校施設により利用率が異なり、地域の利用者を中心に開放しているため、利用の少ない学校施設がある。			

② 成果指標 2		学校施設の年間利用者数					
項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30計画	H31計画
目標値	192,000.0	174,400.0	178,800.0	178,800.0	178,800.0	178,800.0	
実績値	123,189.0	126,239.0	156,991.0	127,514.0	125,740.0		
達成度	64.16	72.38	87.8	71.32	70.32		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
学校施設を市民のスポーツや文化の場として提供することで、体育施設を必要とする人数（スポーツ人口）状況が分かる。また校区住民は学校施設の効率的な使用ができる。		平成16年度より市内全小・中学校で実施。近年利用人数は頭打ち状況のため今後の伸び率を約2～3％に設定。ただし、平成25年をピークとし、目標値を再設定。		学校施設により利用率が異なり、地域の利用者を中心に開放しているため、利用の少ない学校施設がある。			
③ 成果指標 3		フェスタ年間参加者数					
項目	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	H29実績	H30計画	H31計画
目標値	5,000.0	5,000.0	5,000.0	5,000.0	5,000.0	5,000.0	
実績値	4,830.0	4,720.0	4,650.0	4,155.0	4,146.0		
達成度	96.6	94.4	93.0	83.1	82.92		
指標設定の根拠		目指そう値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
総合的教育力活性化事業を活用し、現在すべて中学校区に地域の教育力向上を目的とした地域教育協議会が設置され、4中学校区では、地域の関係機関・団体が力を合わせて、地域フェスタに取組んでいる。この数値を指標とすることで、地域の人々と子どもたちのつながりぐあいや地域連携の強まりや深まりを示すものと考えている。		1校区のフェスタ参加者を目標2000人と設定し、年間5％程度の増加を設定した。平成25年度以降の目標は、これまでの実績を参考に現状維持を目標に設定した。		参加者は年々増加傾向にあったが、平成21年度にインフルエンザの影響を受け、参加者が激減した。平成22年度以降、小中学生の参画、人材の発掘、内容を一層の充実に向け努力することにより、持続しつつある。			

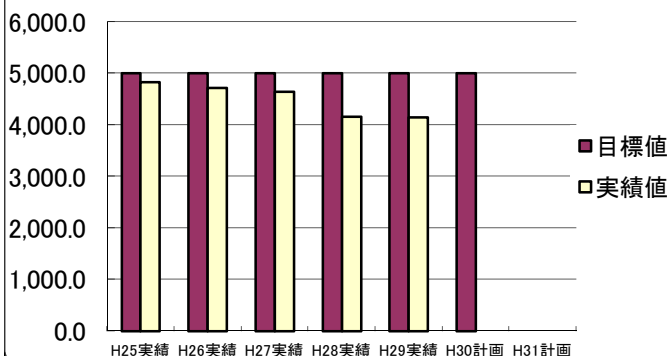
成果指標①



成果指標②



成果指標③



6. 施策の事後評価			
一次評価 (担当課による評価)	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 2	地域のスポーツ活動の場として、学校体育施設の開放は有効に実施されている。平成21年度はインフルエンザの影響により大幅に参加者数が減少したが、平成22年度より増加の傾向にある。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) 2	地域に身近な生涯スポーツ・生涯学習活動の場と機会の提供。地域フェスタを含め、地域の人々の参画意識は増えている。平成24年度市民アンケート調査の満足度(偏差値)が平成19年度より向上した。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) 3	少子化による低年齢層の減少により、利用者数の減少。地域教育協議会の活動に参画してもらえる新しい人材の確保。
	合計点	(10点中) 7点	
	総合評価	B	少子化や地域のつながりの希薄化等の社会的要因はあるが、学校が地域コミュニティづくりや生涯スポーツの拠点となるよう事業を推進していきたい。
二次評価(政策推進課・行財政管理課による評価)		B	引き続き目標値の達成に努めること。
三次評価(理事者による評価)		B	引き続き目標値の達成に努めること。

7. 施策を構成する事務事業							
事務事業			H29年度決算額			H30年度予算	一次評価
	予算コード	事務事業名	人件費	事業費	一般財源		
1	01047400	学校開放事業	4,284	5,013	-113	0	B
2	01048000	教育研究事業	2,081	1,272	1,272	0	B
合計			6,365	6,285	1,159	0	